



## 会員近況

農林水産省  
食品総合研究所分析栄養部

石間 紀男

官能検査研究室に所属しています。官能検査は Psychometric の一分野として位置づけられ、統計的な手法が中心的役割を果たしています。ところで、国の研究機関もプロジェクト主義的な色彩が濃く、本来のテーマだけに固執することは困難になりつつあり、研究対象を凝視するタイプの研究者には住みにくくなっているかもしれません。分析栄養部に席があることから、食品成分表のためのデータベースを設計したり、化学分析法をデータの品質という面から見直す作業や分光学的なスペクトルの分離の問題に興味をもってとりくんでいるところです。また食糧の需要予測にも手をつけはじめています。

OR なり統計なり、既成の手法はたくさんあるのですが、それらを現実に意義あるように応用することは容易ではありません。線形重回帰は最もポピュラーな手法ですが、線形の範囲で有効な問題もある反面、既成の線形重回帰では不十分な問題も多くあり、この古い手法の周辺もまだ研究されねばならないと思っています。

日本国有鉄道  
再建監理委員会事務局

田村 哲也

当委員会は先の第 2 次臨調の答申にもとづき、国鉄の分割・民営化を推進するために作られたものであり、総理府の一組織です。国鉄の負債は現在約 20 兆円あり、この他に年金・退職金等の潜在的債務が数兆円あると見られています。このままでは破綻してしまうとの考えから分割・民営化して必要な路線を存続させようとするものですが、債務が桁違いに大きいほか全国的に収支が悪くなかなかうまくいかなかったり解決案がないところです。

厚生省に数理技官として入省した当初は、厚かましく生きる方法を学びつつも、毎月本誌を読むたびに OR を適用した仕事をしてみたいと考えることもありましたが、私の力不足はさておき、約 2 年で職場が変わること、まず予算をとらなければいけないこと、費用最小といったインセンティブが働きにくいことなど元気が出ないのが現状です。そうこうするうちに外に放り出さ

れ、環境庁では公害患者対策に、また今は国鉄問題にと過去のつけの処理をもっばらやっています。

共和コンクリート工業 長津 行高  
総務部

当社で OR の共同研究を開始してから 3 年ほどになり予期以上の成果を収めつつある。常務会資料として LP、シミュレーションで有効なものを提供し、実際の意思決定に供したり、学会発表も 4 編を数えるにいった。

さて、この頃「人生の OR」を考えさせられている。われわれは意識するしないにかかわらず、能力、資金、時間、情報などの制約条件のもとで、仕事、趣味、家庭、社会活動などの目的関数を最大化しようとしているのではなかるうか。

年齢とともに制約条件の壁を厚く感ずるのであるが、気力だけは気持のもち方 1 つで無限なのかもしれない。また目的関数の形は、その人の人生観により大きく異なると思うし、時や環境により変化してくると思う。ただ誰も「生き甲斐」を追求している点だけは共通と思う。いずれにしても今日もまた、人生の目的関数の最適解を求めてがんばってみるか、と思うこの頃である。

(株)竹中工務店  
情報センター 石井 俊夫

建設会社で情報部門を担当し、現在、全社的な情報化推進活動を展開しています。この 20 年間電算センターから情報センターに変容し、役割もシステム開発・運用から情報サービスへと拡大しました。その当時は計算に一晚かかったとか、効率のよい職人的プログラムを作るとかハードウェアに起因することに神経をすりへらしたものです。現在は海外作業所も含めて全社的な OA 化の波が押し寄せ、オンラインを通り越してパソコンレベルで工程や揚重計画が可能となっています。

このような環境変化にともない多くの部門と複雑な問題解決をする活動が増えています。そこでは OR 的発想が強く要求されますが、高度な手法もさることながら優れた着想と簡単な計算だけでも効果をあげる場合が多いようです。たとえば単純なグラフでも当を得ておれば立派な手法ですし、どう読みとるかで役立ち方が違ってきます。問題発見から解決にいたるプロセスをシステムティックにストーリーづけする能力を身につけることこそ OR の基本ではないかと思えます。

## 会合記録

( ) 内は出席者数

モニター委員会 12月3日(月)(3)

FMES 12月3日(月)(7)

編集委員会(OR誌)

12月5日(水)(11)

APORS委員会 12月12日(水)(4)

編集委員会(JORSJ)

12月19日(水)(5)

広告委員会 12月25日(火)(4)

## 入退会

### ●59年度入会(正会員)

井出 一郎 日本電信電話公社  
 石谷 昌之 八千代エンジニアリング(株)  
 榎本 剛一 ソマール(株)  
 木内 信統 (株)長銀経営研究所  
 桃島 孝典 日本電気ホームエレクトロニクス(株)  
 高辻 秀興 東京工業大学  
 中村 義和 日本電気ソフトウェア(株)

数木 秀二 出光石油化学(株)  
 山下 貞良 関西ペイント(株)  
 山本 彰 (株)日立製作所  
 山本 智浩 東邦石油(株)  
 吉田 敏弘 (株)三菱総合研究所  
 (学生会員)

池田 隆 東京理科大学  
 出縄 進 産業能率大学  
 糸永 慎一 京都大学  
 大内 幸雄 慶応義塾大学  
 大島 茂 産業能率大学  
 大下 英志 広島大学  
 鈴木 広樹 東京理科大学  
 多田 実 大阪大学  
 谷岡 伸司 武蔵工業大学  
 谷本 信 慶応義塾大学  
 千葉 靖紀 北海道工業大学  
 中西 直也 産業能率大学  
 中村 恭子 産業能率大学  
 古川 義郎 武蔵工業大学  
 松本 英之 産業能率大学  
 村田 厚生 大阪府立大学  
 横谷 哲也 東京理科大学  
 渡邊 武雄 高崎経済大学

### ●移動(学生会員→正会員)

磯田 一彦 東京工業大学→(株)東芝  
 鎌部 浩 豊橋科学技術大学  
 →三重大学  
 児矢野 繁 早稲田大学→(株)東芝  
 杉村 誠 工学院大学  
 →松下電器産業  
 吉崎 収 埼玉大学→建設省  
 朴 仁洪 信州大学→パンフィック  
 コンサルタンツ(株)

### ●60年度入会

稲垣 敏之 筑波大学  
 岩松 雅夫 千葉経済短期大学  
 門田 博隆 四国電力(株)  
 佐藤 誠 (株)東芝  
 鳥居 裕 四国電力(株)  
 中島 賢治 森永乳業(株)  
 中野 祐司 新日本製鉄(株)  
 永岩健一郎 広島商船高等専門学校  
 林 真人 (株)三菱銀行  
 平井 晴己 共同石油(株)  
 平松 誠治 八尾郵便局  
 矢野 均 香川大学

編集後記▶あちこちの地域(“まち”, “むら”)を訪れてみますと、その地域の人々の声から地域の悩みをひしひしと感じることが出来ます。現地に行ってはじめて、目にふれる新鮮さがあります。自治の確立、定住の拡大、地域の魅力の創出をめざして明日の地域に責任を負おうとする多くの人々に接しますと、そこには問題解決のためのヒントが多くひそんでいます。私たちはORというも

のを武器にして、ある現象を表現したり、問題解決のアプローチを行なおうとしますが、現実には逆で、生活や仕事の中で試行錯誤の連続と悩みに悩んだ末にはじめて、強いて言えば“OR的”解決法が生まれているのではないのでしょうか。各地にひそんでいるヒントを発掘し、地域相互の情報交換と技術移転を進めることによってORの流通と発展を促すことができると思うのですが。(J)

# オペレーションズ・リサーチ

昭和60年2月号 第30巻(新シリーズ第10巻) 2号 通巻290号

代表者 近藤 次郎

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
(電話 03-815-3351~2) 〒113

編集人 牧野 都治

発売所 株式会社 日科技連出版社  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円(郵送料含)年間予約購読料 9600円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社(571-2548)、日経弘報社(563-2241)へ